東日本大震災から10年を迎えるにあたって

巨大津波と福島第1原発事故により、全国で約2万2000人余の死者（関連死含む）・行方不明者を出した東日本大震災。この未曾有の大災害発生から今年の3月11日で10年になります。11月15日に開催した「けんせつ」通信員総会では、出席した通信員の皆さんに「東日本大震災から10年を迎えるにあたって」をテーマに書いていただきました。

東日本大震災直後の被害の様子（岩手県大槌町）

人間捨てたものじゃない 心に灯ともった光景

坂本さん

【三鷹武蔵野・造園・坂本正美通信員】あの日から10年、早いものである。

電話はどこにもつながらず、なすすべもなく現場を片付け、三鷹の自宅に帰った。自宅は何の被害もなくひと安心。しばらくすると妻から電話、新宿のデパートにいるという。電車が止まっている、迎えに来てほしい、甲州街道で帰るという。軽トラックで向かう。歩いて帰宅する人々で甲州街道はひしめきあっていた。車は動かない。

4時間ほどかかってひしめく人々の中に妻を見つけた。軽トラが幸いして、妻もすぐにわかったという。大変な人々が帰宅を急ぎ歩いていた。

そんななか、数カ所の家や店で、その人たちに飲み物とサンドイッチなどをふるまうところがあった。腰を大きく折って礼を言っている人々がいた。

地震発生から数時間でこんなことを思いつき実行できる家や店があることに驚き感激した。心に灯がともった。温かくなった。

それから帰宅までに数時間ずっとその光景を見ていた。人間捨てたものじゃない。

線路はグニャリ 駅舎流されホームだけ

進藤さん

【村山大和・建設機械運転・進藤藤男通信員】あれは震災から1年後の5月の連休のことでした。

義理の姉の実家が宮城県東松島にあり、兄夫婦が親の家を別荘のように使っており、5月の連休は実家におり「震災の爪痕を確認に来ないか」と誘いがあり、車で出かけました。

東松島に到着後、兄夫婦と合流、東松島市から気仙沼まで回り、津波の怖さを目の当たりにしました。

駅舎はなくなりホームだけ。また線路はグニャリと曲がり、周りの家々も外壁はあっても中は何もない状況でした。松島航空基地のフェンスにはゴミが引っかかり、ドラム缶が転がっていました。気仙沼までの道中では入江の奥まで津波が押し寄せ、船がひっくり返っているのをたくさん目にしました。帰りの高速道路には放射線モニタが設置され、高い数値が標示され、バイクは通れませんでした。

数年後再び訪れた時は、東北道から国道6号線で福島原発の近くを通り、安倍首相はもう収束したと発言しますけれど、国道の両側から側道には入れない。また、トン袋の山々。

津波は天災、原発は人災であり、原発は絶対に許すことはできないと強く思った。

半泣きしてた作業員 あんな大地震来たらと心配

前原さん

【町田・総合看板・前原勝美通信員】東日本大震災が発生した当日は、朝から良い天気に恵まれたので、武蔵村山にあるマンションに、館銘板を3棟分取り付けるために向かいました。

町田から現場まで約1時間ほどで到着すると、取り付ける場所を再確認して2人で作業を始めました。2カ所の取り付けが完了した時点で、昼食後に休憩。残りの館銘板をもう少しで取り付け完了するときに、穴を空けているそのサイディング壁が揺れました。私はめまいがしたせいで揺れていると思っていたのですが、電線の工事中で高所作業車に乗っていた作業員が、大声で「ストップしてくれーっ！」と怒鳴っていたので、やっと大きな地震だと分かりました。

あわてて下に降りる時は、今までに経験したことのない大きな地震に、まわりで穴を掘っていた水道作業員も大声で、「穴が崩れてきたから止めるよ～っ！」と半泣きしていました。

同じ年に生まれた孫 もう10歳かと思いしみじみ

田口さん

【府中国立・塗装事務・田口久子通信員】震災当日の2時何分だったか、気分が悪くなるような揺れを感じて2階の部屋で歩き回りました。ベランダから向かいのおじさんやはす斜めのおばあさんに「元気ですか？大丈夫ですか」と声をかけました。お二方とも介護を利用する立場になってしまったが、未だに会うと「あの時、田口さんに声かけてもらって安心したよ」と言ってくれるのがうれしいです。

同じ年の5月に誕生した孫も10歳になるのかと思うと、年月の経つのを感じています。東日本大震災の起きる2～3年前にサクランボ狩りや、松島の遊覧船に乗った旅越道の高速道路は、新潟へ逃げたい人たちで大渋滞になったと福島の友人が話してくれたことを思い出す。

渋滞の車の中で、一人ひとりは何を考えたのだろう。急いで年々劣化は集落全体に広がりました。今は立ち入り規制は解かれて住むことも可能になりましたが、周りでは誰も戻った家はありません。

ついに行政は財政出動をかけて、希望があれば無料で既存住宅の解体と更地化を決定。今、ほとんどの家が解体更地化に同意し、作業が進んでいます。実家も今冬までには解体更地化が終わります。

事故さえなければ、妻が幼い頃、前の小川で水遊びした、あの川で私たちの子どもも水遊びさせた、あの川で、私たちの孫にも、自然に触れ合う水遊びをさせることができない悔しさがあります。平和な日常を返してください。

核爆発を隠し通した国 「伝承館」でも再び

岩武さん

【多摩・稲城・設計・岩武憲生通信員】「福島第一原発の事故でI・2・4号機が『水素爆発』を起こし、大量の放射性物質が大気中に拡散した。だが、3号機は『核爆発』だったのではないかという疑惑がある…」というコラム記事を、機関紙に掲載しました。

記事の中で「①黒火煙が舞い上がった、②すべての電源が失われた、③使用済み燃料プールも臨界した、④水素ガスが爆発した。《中略》自己制御が利かなくなり、ついに『核爆発』が起きた」と締めくくりました。

何年もが過ぎて明らかになった内容で、国は隠し通しました。そんな中、福島県双葉に9月20日に開設された「伝承館」を訪れた支部通信員の2人の方から記事の投稿がありました。12月発行の機関紙に載せる予定ですが、内容は、「語り部」の方へのマニュアルがあり、話す内容に制限があることについて2人の方の意見が出されました。

国のすることは、いつまでたっても同じです。

できる限りの支援続け 元通りの暮らしに

高橋さん

【世田谷・土木・高橋一郎通信員】支部としても三陸などへ支援活動をしてきましたが、まだ一部の地域では、何の考慮もないまま、辛い日々を送っている人たちが多い。自分の家に帰るのも諦めた人もいるし、知り合いや家族を失った人も大勢いる。

東京でも、かなりの被害で塀が倒れて散らばったのを片付けに行ったり、家のテレビなどが倒れたりと大変な思いをした。そんな中、原発付近の町などは放射能などでとてもお行くのことを時々思い出したりします。もちろん、当日テレビで観た津波の逆流の様子は一生忘れることはないですね。

東北の早い復興を願うばかりです。府中国立支部の知り合いは岩手の人が多いので、話題に未だなりますよ。

根本から考え直さねばならぬ10年目

西村さん

【日野・電気・西村滋雄通信員】宮城県の村井知事が女川原発の再稼働を決めた。上関の原発工事も少しずつだが進んでいる。現在約50基の原発のうち2基だけ日本では稼働している。

10年前、私たちは原発事故の恐ろしさを目の当たりにした。その時、日本国民はエネルギーの転換に希望を託し、夢を見たはずだった。地球には再生エネルギーと呼べる資源（風、太陽、水素、波、地熱等）が無数にあるが、日本は転換し損なってしまった。

国と東電を批判せず どうやって引き継ぐのか

朝倉さん

【小金井国分寺・造園・朝倉法明通信員】原発事故翌日の12日、浪江町では住民800人に10㎞圏外への避難指示が出された。磐越道の高速道路は、新潟へ逃げたい人たちで大渋滞になったと福島の友人が話してくれたことを思い出す。

渋滞の車の中で、一人ひとりは何を考えたのだろう。急いで年々劣化は集落全体に広がりました。今は立ち入り規制は解かれて住むことも可能になりましたが、周りでは誰も戻った家はありません。

ついに行政は財政出動をかけて、希望があれば無料で既存住宅の解体と更地化を決定。今、ほとんどの家が解体更地化に同意し、作業が進んでいます。実家も今冬までには解体更地化が終わります。

事故さえなければ、妻が幼い頃、前の小川で水遊びした、あの川で私たちの子どもも水遊びさせた、あの川で、私たちの孫にも、自然に触れ合う水遊びをさせることができない悔しさがあります。平和な日常を返してください。

あの惨劇を見て、原発はいやだ、反対だ、と国民感情は高まった。

しかし、政権や電力会社等、推進派は違う立場をとり、各地で懐柔策に力を注いでいる。最近では、北海道の寿都町、宮城県の女川原発再稼働、福島では、原子力災害伝承館がオープン。しかし、驚いたことに、語り部のマニュアルには特定の団体批判禁止とあるそうだ。この事故を国と東電を抜きにして何を語れというのか。この施設関係者は風化させず、世代を超えて引き継ぎたい」というが、どうやってと言いたい。

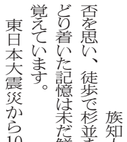
2012年7月の原発ゼロ緊急集会には2万人が集結

妻の実家も解体更地化 平和な日常返して

清水さん

【港・設備・清水弘之通信員】私の妻の実家は福島の浪江町でした。原発事故当時には無人の空き家でしたが、家や庭の手入れは、年に数回訪れて草刈りや空気の入れ替えをしていました。事故後には立ち入り禁止区域となり、その間に空き巣やイノシシの進入被害で家の内外がメチャクチャになりました。何しろドアを体当たりで破って入るのですから、その後も他の動物が入り放題になってました。近くの家も同じ被害を受けてく気持ちの中に、もう家には帰れないと考えた人はいただろうか。

しがらみ見え隠れし 復旧復興に希薄なメディア


青木さん

【並・建築設計・青木隆之通信員】東日本大震災が起こったまさにその時、東京湾岸におり、東京タワーは先端がたわみ、スカイツリーが工事中、家族知人の安否を思い、徒歩で杉並までたどり着いた記憶は未だ鮮明に覚えています。

東日本大震災から10年です。私は建築設計を生業にしており、この10年にそれに近い立場で東京土建も含め、活動や取り組みをしてまいりました。約26年前、阪神淡路大震災の時も生業同じくして、この二つの災害を見守ると、後者の大地震はその後、建築基準法の耐震に対する見直しや改正を国がかなり力を入れ、また建設でも施工精度の改良にかなり制度改善が求められるように今に至っています。被災地のまちの復旧復興も同じです。

さて、前者の東日本大震災について年々劣化は集落全体に広がりました。今は立ち入り規制は解かれて住むことも可能になりましたが、周りでは誰も戻った家はありません。

ついに行政は財政出動をかけて、希望があれば無料で既存住宅の解体と更地化を決定。今、ほとんどの家が解体更地化に同意し、作業が進んでいます。実家も今冬までには解体更地化が終わります。

事故さえなければ、妻が幼い頃、前の小川で水遊びした、あの川で私たちの子どもも水遊びさせた、あの川で、私たちの孫にも、自然に触れ合う水遊びをさせることができない悔しさがあります。平和な日常を返してください。

全被災者の救済と 再生エネへ転換を望む

加藤さん

【渋谷・看板・加藤行夫通信員】いつ、どんな状態で起こるか予想がつかない自然災害は、山や川の多い日本では避けることができないことなのでしょうか。東日本大震災は、津波により多くの人命を奪い、原発も破壊しました。未だに自宅に帰れず避難生活を強いられている住民が多数います。

事故さえなければ、妻が幼い頃、前の小川で水遊びした、あの川で私たちの子どもも水遊びさせた、あの川で、私たちの孫にも、自然に触れ合う水遊びをさせることができない悔しさがあります。平和な日常を返してください。

「備えあれば憂いなし」と言いますが、個人では備えも限度があり、強靭な国土を作るのは国や自治体の責任。特に原発の事故は人災です。

国と東電が率先して進めた原子力発電は、「トイレのないマンション」と揶揄されるほどです。後始末もできない物に、巨大な資金を投入し、空を汚し、海を汚染して生業を奪いました。国や東電の責任で被災者全員救済するのは当然のことと思います。自然再生エネルギーに転換することを強く望みます。

原発の再稼働 考え直すべき

半澤さん

【新宿・内装・半澤信司通信員】この間組合として、被災地支援に数多くの人を送り出した。防災・減災に対する意識も新たになった思う。

各支部にまちの救助隊ができ、各自治体と連携した動きを見せている。自治体からの要請も数多くきているようだ。これからも組合が自治体、地域にしっかり根差していく良い機会になる。

一方では地球温暖化にともなう自然災害が多発している。大雨・洪水・台風被害などのほか、首都直下型地震も心配である。特に河川の氾濫は治水対策を再度見直す必要があるのではないかと思う。

国と関係省庁にお願いしたい。最近、原発について再稼働の動きが多くみられる。もう一度立ち止まり、考え直してほしいと思う。福島のことを思うと恐怖でたまらない。

最後に、個人としては、自分自身の防災に対する考えをいつでも問い詰めていきたいと思う。組合としても、日時が経つと忘れがちになるので、防災意識はしっかり持っていくことが大事である。東日本大震災を、忘れることのないようにすること。

1度駅頭ですまにえて 月訴

小田井さん

【調布・ハウスクリーニング・小田井文栄通信員】東日本大震災から早10年。自然災害とはいえ、大変な被害が出ました。

また、さらに原発がある福島が大変な被害に遭っています。今なおこの原発のために、ふるさとを離れなくてはならなくなった人もたくさんいるのではないでしょうか。

原発プラス放射能、これが大変怖いです。日本は自然災害が多い国だと思うなかで、原発がある地域では再稼働してきています。

私の地域では震災直後から、月に1度駅前にて地域の諸団体の皆さんと、原発はいらない、別のエネルギーをと訴えています。

これからも、この運動にがんばっていきたいと思っています。

日本から原発がなくなるまでように。

不安と期待で待つ 平和へのジャンプはいつ

青木さん

【目黒・空調・青木清通信員】水素爆発が起きた時の恐怖は今でも忘れられません。

目黒区では節電を理由に集会場の利用がストップされ、5月から予定されていた目黒区美術館の「原爆を視る」美術展が中止に。丸木位里・俊さんの〝原爆の図〟をはじめ原爆をテーマにした多くの絵画、イラストなどを集めた画期的な催しだったのに。

非常時の混乱の中で、表現の自由さえも抑制される、それをやむを得ないものとして受け入れてしまう。これは今起きているコロナ禍の中でもいえることではないでしょうか。

しかし、当時の人々は見事に立ち上がりました。「原発やめろ」の声は全国に広がり、国会前にも多くの人が集まりました。そしてその人たちが9条を守る運動へ、安保法制反対の行動へ、安倍NOへとつながっていきました。

私も長い間平和運動に関わってきましたが、9条の会の運動がホップ、反原発がステップだったと考えています。次のジャンプがいつ来るのか。期待と不安の混じった気持ちで今を迎えています。

詰将棋の解答

▲2一歩成△同玉▲3二金△1二玉▲1二歩△同飛▲3三馬△同角▲2三桂打まで9手詰。